

日本万国博覧会記念基金は、今年創設50周年を迎えました。

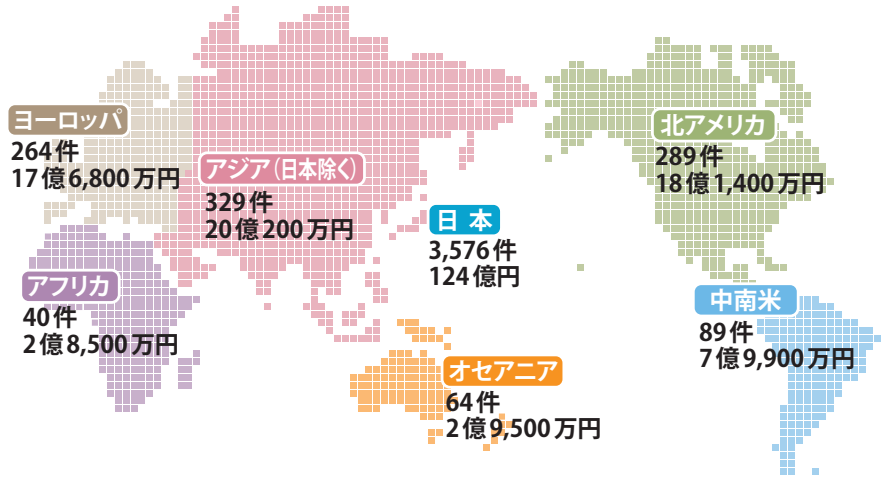
1970年に開催された日本万国博覧会の収益を基に、1971年9月に創設された日本万国博覧会記念基金は、今年50周年を迎えました。

その間に、日本と海外の国際相互理解を促進する活動などに対して、累計約4,600件、約193億円の助成を実施してきました。

50周年となる今年度は、複数年度助成事業や日本文化を研究する外国人留学生に対する奨学金給付制度を導入し、これからも世界の調和ある発展に貢献するために、助成事業を続けてまいります。

助成実績(1971年度～2021年度)

114の国及び地域に約4,600件、約193億円の助成を実施



50年の歩み

1971 ▶ 1980年

1971年に万博記念基金を創設し、国際文化交流活動や学術、教育などに関する国際的な活動に助成を開始しました。1976年には、オーストラリアの「カウラ日本庭園」の建設に助成。同庭園の整備・改修事業は1985年、1992年にも行われ、合計で6,003万円を助成しました。この10年間で、累計888件・約46億円の助成を行いました。



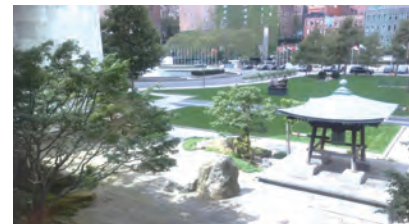
カウラ日本庭園

1981 ▶ 1990年

基金創設から20年を経て、助成は累計2,025件・約98億円に達しました。

1991 ▶ 2000年

日本美術技術博物館 Manggha (ポーランド)の建設に1,558万円(1994年)、国連本部日本ピースベル庭園(アメリカ)の新築工事に2,000万円(1999年)を助成するなど、基金創設から30年を経て、助成は累計3,188件・約156億円に達しました。また、1995年度には年間最高額となる6億3,500万円の助成を行いました。



国連本部日本ピースベル庭園

2001 ▶ 2010年

ザンジバル武道館(タンザニア)の建設に500万円(2001年)、イグアス日本「匠」センター(パラグアイ)の改修に430万円(2008年)を助成するなど、基金創設から40年を経て、助成は累計4,078件・約183億円に達しました。



ザンジバル武道館



イグアス日本「匠」センター

2011 ▶ 2021年

2014年4月に関西・大阪21世紀協会が「日本万国博覧会記念基金事業」を承継。大阪万博(1970年)の理念と基金を、永く後世に伝えていくこととなりました。2017年にはオークリッジ国際友好の鐘 平和の鐘楼(アメリカ)の建設に595万円を助成するなど、基金創設から50年を経て、助成は累計、114の国や地域・機関に約4,600件・約193億円に達しました。



オークリッジ国際友好の鐘 平和の鐘楼

世界各国で助成金が活かされています

本号より、過去50年間に日本万国博覧会記念基金の助成金を活用して建設された海外の施設についてご紹介してまいります。

<第1回>

ポーランド共和国／日本美術技術博物館Manggha(マンガ館)



日本美術技術博物館Mangghaは、1920年にポーランドの美術品コレクターであるフェリクス・マンガ・ヤシエンスキ氏からクラクフ国立美術館に寄贈された15,000点にも及ぶ日本美術コレクションを基に1994年ポーランドクラクフに建設された国立の博物館です。



日本美術技術博物館Manggha (ポーランド クラクフ)
Archives of the Manggha Museum, photo by Krzysztof Ingarden

当博物館は、若き日にマンガ氏のコレクションを鑑賞したポーランドの世界的映画監督であるアンジェイ・ワイダ氏が、「自分が少年時代に初めて日本の美術に触れた時の幸福感をポーランドの人々に味わってほしい」とマンガ氏のコレクションの常設展示美術館の建設を提唱し、1994年にクラクフ国立美術館の分館として設立されました。建築家の磯崎新氏が設計を手掛けています。この建設費用に対し、万博記念基金では1,588万円の助成を行っています。

2005年に日本美術技術博物館Mangghaは独立した国立の文化施設となり、2007年に博物館として認可されて現在に至ります。

現在も、日本の伝統美術品や現代アートの展示の他に、日本語教室、生け花展示、茶席などの様々なイベントが開催され、ポーランドと日本の文化の懸け橋として日本文化を紹介する唯一の国立の施設となっています。



館内の展示風景
Archives of the Manggha Museum, photo by Krzysztof Ingarden

万博記念基金では、日本美術技術博物館Mangghaで実施されたイベントにも助成をしてきました。

2018年度には、兵庫県龍野市で国際芸術祭を開催している龍野アートプロジェクトが当博物館で開催した「龍野アートプロジェクトinクラクフ」に対し、150万円の助成を行いました。



龍野アートプロジェクトinクラクフ(2018年度助成)

2019年度には、当博物館の主催事業として、日本ポーランド国交100周年記念事業「備前長船日本刀展覧会」に対して、重点助成事業として640万円を助成。広島県瀬戸内市の備前長船刀剣博物館から借り受けた日本刀(37口)の展覧会で、期間中に作刀・鍛錬実演、日本刀の歴史や武士道精神の講演会などを実施しました。

本年度はスピリット・オブ・ポーランド財団が当博物館で実施する、ポーランドと日本の女性芸術家の作品展示会「内なる力 ポーランドと日本の女性たち」を助成事業として採択しています。



備前長船日本刀展覧会(2019年度助成)

EXPO'70 基金 2021 年度助成金及び奨学金贈呈式

2021年7月28日／大阪工業大学梅田キャンパス常翔ホール

基金創設50周年を記念して 複数年度助成と奨学金給付事業を開始

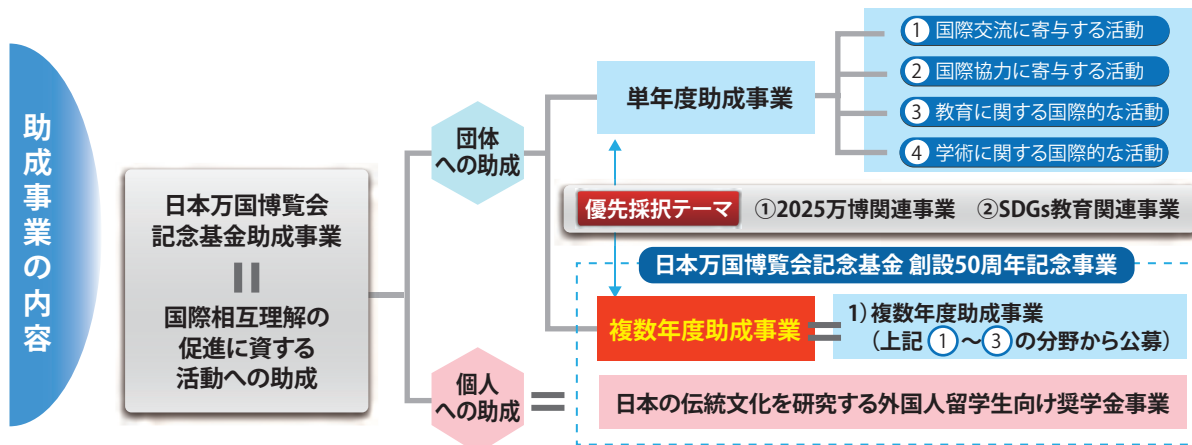
関西・大阪21世紀協会は、2021年度の万博記念基金助成事業として、国内外から申請された116件の中から40件を採択し、総額6,400万円の助成を決定しました。

また、基金創設50周年を記念して、今年度から二つの新たな取り組みを開始。一つ目は、以前から要望の多かった「複数年度の助成」の新設で、15件の申請の中から審査の結果、スペイン・バルセロナの漆芸文化普及協会の「日本との交流を通じた漆芸普及と文化財・世界遺産保護への取り組み」が第1号として採択されました。二つ目は、日本初の「日本の伝統文化を研究する外国人留学生(大学院修士課程)を対象とした奨学金給付事業」のスタートで、東京藝術大学、京都市立芸術大学、大阪大学、早稲田大学から推薦された5名に、奨学金が給付されることとなりました。

7月28日にその贈呈式が行われ、冒頭、当協会の崎元利樹理事長は、「コロナ禍にあつて活動しづらい状況ではありませんが、助成金や奨学金を有効にご活用され、大いに成果を上げていただきたい」と挨拶。新型コロナウイルスの感染予防と拡散防止のため、二つの助成団体と3名の奨学生に代表して出席していただき、崎元理事長から目録が手渡されました。その後、2019年度助成の団体による事例発表会と2022年度の募集説明会が行われました。

2021年度の申請と採択の内訳

	申請		採 択	
	件数	金額	件数	金額
国内外合計	116件	2億7,076万円	40件	6,400万円
国外事業者(内数)	(20件)	(5,851万円)	(8件)	(1,140万円)



2019年度助成団体の事例発表

特定非営利活動法人 Colorbath 「ネパールの子どもたちとのグローバル交流プログラム」

代表理事 吉川雄介氏

私たちは、「人づくり」としての教育事業と、途上国における雇用創出としてのソーシャルビジネス事業の二つを中心に活動を行っています。

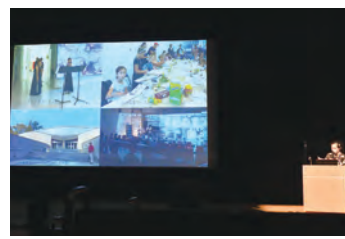


今回は、ネパールの子どもたちが徳島県でホームステイをし、日本の子どもたちや地域の人たちと一緒に注連縄づくりや藍染めなどを体験。ネパールの子どもたちは帰国後、「心は今も日本と繋がっている。この思い出を一生の宝物にします」と感想を寄せています。そうした交流は日本文化を海外に発信する機会にもなっています。私たちは「想いをカタチに、未来をつむぐ」というテーマを掲げ、子どもたちのピュアな想いを一つずつ形にし、その先により良い未来があると信じて活動していきたいと思っています。

特定非営利活動法人 ひとまちあーと 「たつのアートプロジェクト」

芸術監督 加須屋明子氏

「たつのアートプロジェクト」は、国際的に活躍するアーティストを招き、新たな視点の作品で幅広い層に芸術・文化の楽しさを感じてもらえるよう活動しています。



2019年は日本とポーランドの国交樹立100周年を祝い、9月21～29日にかけて日波国際芸術祭「anima」をたつの市総合文化会館などで開催。ポーランドのデザイナーで作家のヨアンナ・ハヴロット氏を招いて着物にまつわるワークショップを開催したり、新進気鋭のアニメーション作家・宮嶋龍太郎氏のアニメーションを上映したりしました。また、龍野市出身の作曲家・藪田翔一氏が音楽監督を務めるコンサートを実施。芸術におけるanima(生命、魂)の源流を探りました。

2021年度奨学金給付事業

大阪万博の理念を世界に広げ 日本と外国の懸け橋になる人材の育成を目的とした 奨学金給付事業を開始します

70年大阪万博の理念を世界に広げ日本と外国の懸け橋となる人材の育成を目的とした「日本の伝統文化を研究する外国人留学生(大学院修士課程)を対象とした奨学金給付事業」を開始します。

グローバル社会の進展に伴い、「人類の進歩と調和」をテーマに開催した1970年の日本万国博覧会の理念が世界中で求められています。「日本万国博覧会の意図」には、「世界に様々な文明が多能的に共存することを、理解と寛容の精神によって認め、それらの多様性の調和の中にこそ進歩が望まれなければならない…」と、万博記念基金助成事業が最も大切に継承している理念である「調和的発展の精神」が記されています。

万博記念基金では、この理念実現のために世界の未来を担う次世代人材の育成が重要であると考え、外部有識

者のご意見を踏まえて、「日本の伝統文化を研究する外国人留学生を対象にした奨学金給付制度」を開始しました。

また、奨学生には、年に2回程度研修の場を設け、日本の伝統文化を学ぶ機会を提供するとともに、奨学生同士や当協会との交流を深め、将来「日本と外国の懸け橋」となる人材の育成に努めてまいります。

奨学生選考の経緯

- 2021年3月 公募を開始
- 5月 大学での学内選考を経て、4大学から5名の申請を受付
- 6月 外部審査委員による審査
- 7月 5名の外国人留学生へ奨学金の給付を決定

奨学生の皆さんの声

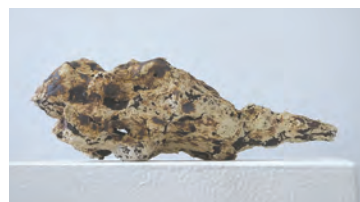


鄭天雨(テイテンウ)さん(中国)

京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻(陶磁器)2回生

将来、他分野とのコラボをしたり、スタジオと多機能空間や日中の職人紹介ができるHPを作ったりして、日中の芸術交流の懸け橋になれば幸いです。

鄭天雨さんの作品



Lam Joyce Tsin Yun(ラム ジョイス セン キン)さん(カナダ)

東京藝術大学大学院映像研究学科メディア映像専攻2回生

人生において様々なことを自由に選択できるように、「家族」の研究を深めながら満足のいく作品を制作したいと思います。気を引き締めて精進します。

「家族に関する考察のトリロジー」より



解桐(カイトウ)さん(中国)

東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学専攻(尺八)1回生

日本の尺八文化を、中国だけでなく世界に広げるように全力を尽くしたいと思います。この度、奨学金給付により、私の研究を支援していただき、心から感謝しております。



楊 檀(ヨウロ)さん(中国)

大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻(漢詩研究)1回生

将来、日本古典文学の分野で貢献できる研究者を目指しています。また、日本の伝統文化の魅力が国際社会に発信するために尽力したいです。



王 群(オウグン)さん(中国)

早稲田大学大学院創造理工学研究科建築学専攻1回生

私には、将来、伝統的建造物保存に関わる仕事に就くという目標があります。今後ともご支援いただいたことへの感謝を忘れず、文化財事業に貢献する方向に精進していきたいです。

多聞寺の調査をする王 群さん(右)

